令和６年度
名寄市教育改善プロジェクト委員会

教育経営の充実に関する研究グループ

令和７年１月21日
発表者　名寄東中学校　久保　康徳

令和６年度名寄市教育研究集会

小学校理科専科指導の成果と課題

令和７年１月２５日
発表者　名寄南小学校　安斉　輝昭

１　概要

(1)　学校力向上に関する総合実践事業の一環

(2)　ねらい

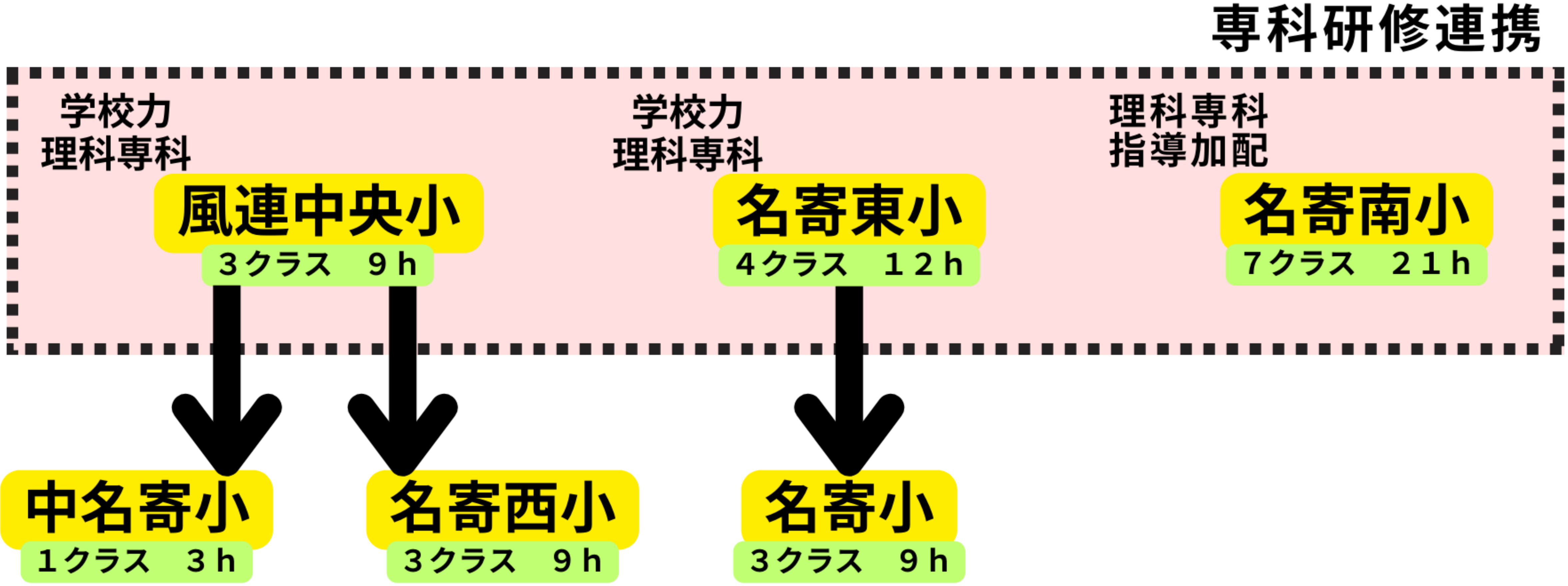
ア　自然に親しみ科学的に問題解決する
　資質・能力の育成

イ　専門性を生かした観察・実験の充実

ウ　教育の質の向上と教師の負担軽減を
　一体的・効果的に推進すること

2　活動内容

(1)　各学校での授業



2　活動内容

(2)　名寄市地域協議会

ア　期日

６月２４日

イ　研修内容

(ｱ)　資質・能力の向上に向けた見方・考え方をはたらかせる理科授業

(ｲ)　各学校の学習の進捗

(3)　専科教員交流会（道教委研修）

ア　期日

７月２４日

イ　研修内容

(ｱ)　資質・能力の育成に向けた授業の充実

(ｲ)　教具等の取扱いについて

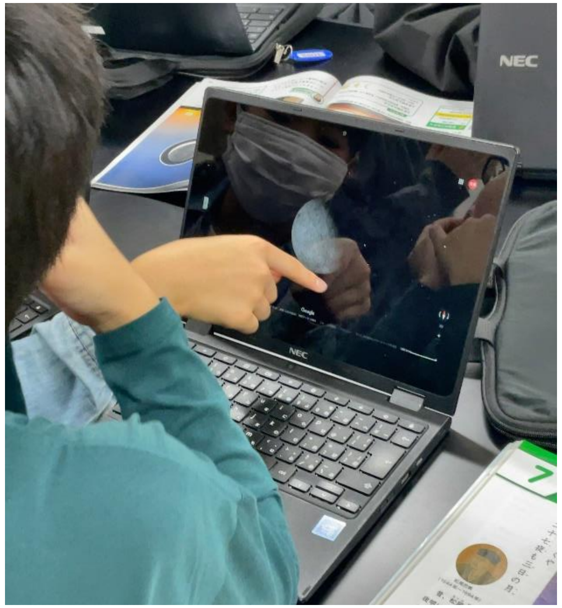
(ｳ)　教科担任制の充実に向けて

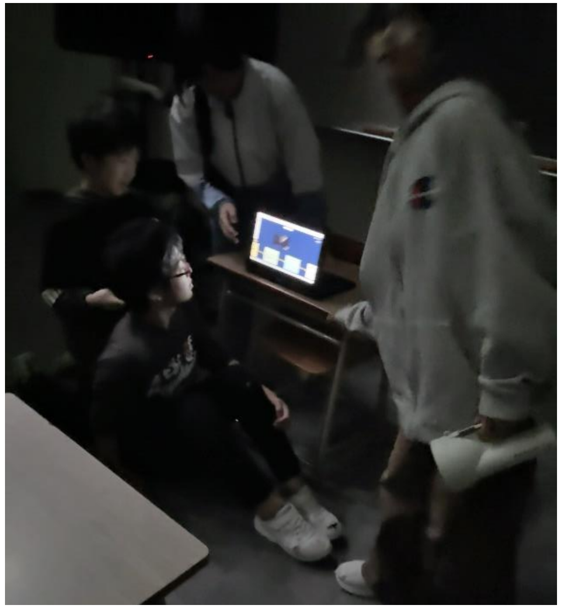
2　活動内容

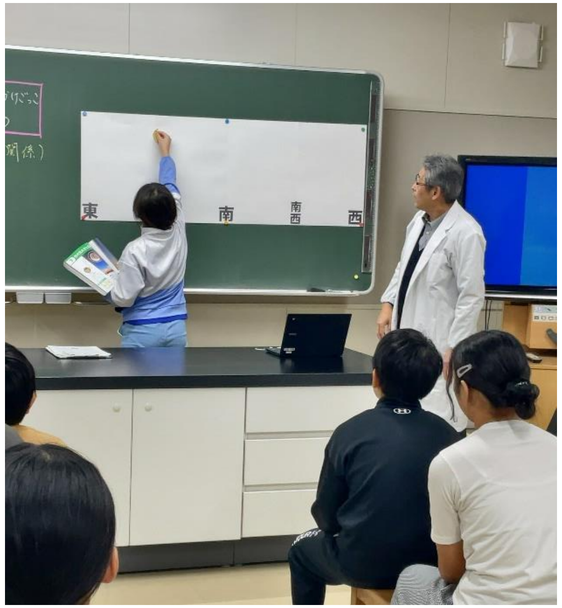
⑷　互見授業及び交流

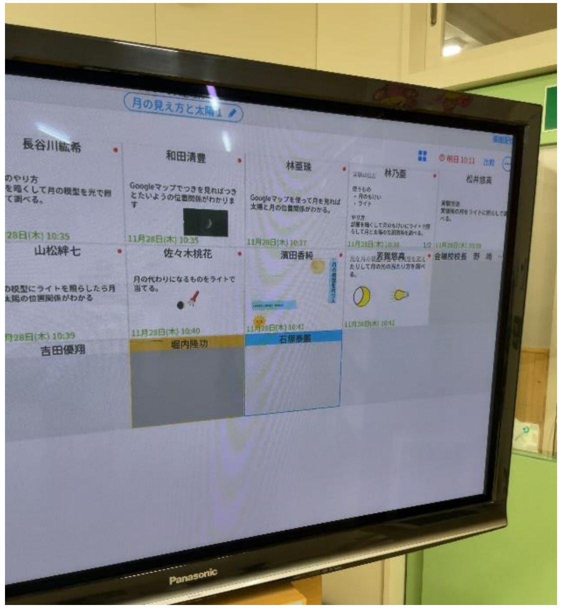
ア　風連中央小学校

㈠　第６学年　単元７
「月の見え方と太陽」









㈡　交流内容

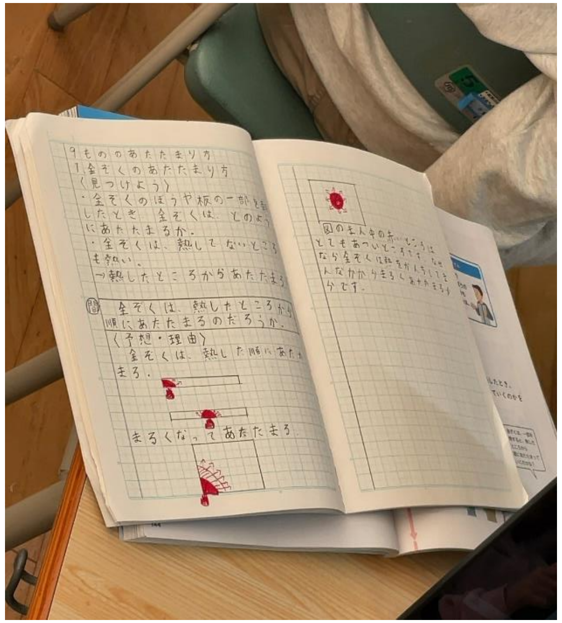
- 単元計画を工夫し、天文台との連携を図り、地域の教育資源の活用を図ることができた。
- 実験の構想を児童が考え、主体的に問題解決に向かう授業ができた。

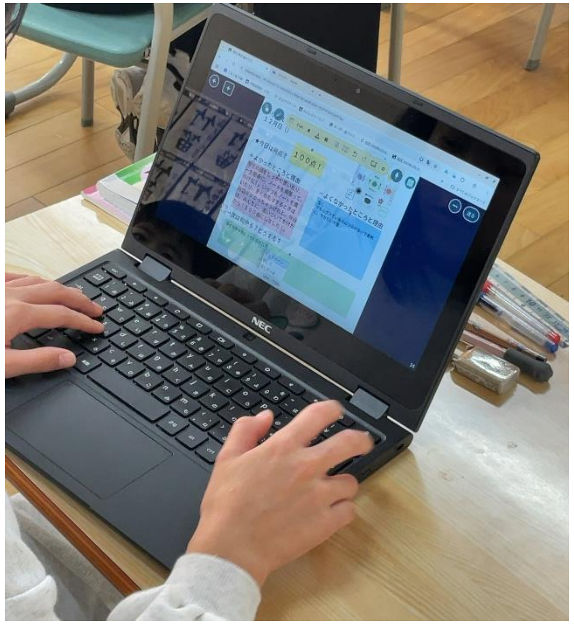
２　活動内容

⑷　互見授業及び交流

イ　名寄南小学校

㈠　第４学年　単元９
「もののあたたまり方」





㈡　交流内容

- 問題解決の過程を子どもに意識させることができた。
- 日常の現象から問題発見を促す直接体験も必要になる。
- ふりかえりで１００点になる子が多く、主体的に学び続けられる学習だった。

３　成果と課題

成果

(1)　授業づくりの視点について共通理解を図り、日常の授業改善に活用できた。

(2)　教材・教具やICTの効果的な活用の情報共有により、児童の学習意欲の向上につなげることができた。

課題

(1)　互見授業の時期について、年間を通して、計画的に実施する必要がある。

(2)　小中学校を通じた内容の系統性を意識し、地域の教育資源の活用方法について検討する必要がある。

4　今後に向けて

①小中の系統的な学びの整理

風連中　名寄東中　名寄中　智恵文小中

市教研理科班との連携

理科専科 風連中央小　理科専科 名寄東小　理科専科 名寄南小

専科研修連携

中名寄小　名寄西小　名寄小

②地域の教育資源の有効活用

きたすばる

- 地球と天体の運動

北国博物館

- エネルギーの捉え方
- エネルギーの変換と保存
- 生物の構造と機能
- 生命の連続性
- 地球の大気と水の循環